

あおもり

県民
だより

2014
6
月号
No.145

強みをとことん、課題をチャンスに
Breakthrough Innovation

「青森の藍で、独自の藍染め技術を確立したい」。今から10年前、そんな夢を胸に青森市内の異業種4社が連携し、あおもり藍産業協同組合を設立しました。しかし、藍染めに関してはまったくの素人集団。始めのうちは何をやっても失敗の連続でした。何度も試行錯誤を繰り返しながら、ついに、乾燥した藍葉をパウダー化し、独自の手法で濃淡をつけて8パターンの色調が出せる技術の完成にこぎつけました。「あおもり藍」は、藍の無農薬栽培から、染色、縫製まですべての工程を地元で行っており、オーガニックの技と力を結集して生まれた商品です。

みんなの想いがひとつになって、
新たな「青森ブランド」を生み出す。

2010年には、私たちが作ったポロシャツが宇宙飛行士の山崎直子さんの船内服にも採用され、私たちの思いの結晶であるメイドインアオモリの藍染めが、ついに宇宙へと飛ばされました。今、国内外のデザイナーからも熱いメールが寄せられており、そうした商品を青森から発信できることが誇りです。夢をあきらめないこと、失敗を恐れずに何事にも挑戦し続けること。一人ではできなくても仲間と連携しながら同じ目標に向かって力を結集することで、新たな青森の価値を生み出せると信じています。

吉田 久幸

(あおもり藍産業協同組合代表理事)

本県には自然や歴史・文化、県産品や産業・技術、国内外で活躍する人材など、さまざまな地域資源があります。これらの資源が生み出す価値が、私たち青森県に暮らす人々の生活を支えてきました。こうした資源が持っている価値は、複数を組み合わせたり、さらに磨き上げたりすることで、1+1=2以上となる可能性を秘めています。また、今まで気づかなかった新たな資源もまだまだあるかもしれません。国内外の人々から認められる、青森にしかない、青森らしさを備えた、青森の資源の価値。これらの価値の総体が「青森ブランド」なのです。

青森県基本計画
未来を変える挑戦
～強みをとことん、課題をチャンスに～

CONTENTS

- 特集：2030年のめざす姿 ①～⑤
世界が認める青森ブランド
- ① 申吾のほっとコラム……………⑥
ちよつとの工夫で、健康ごはん!
 - ② 輝く女性のためのプレミアムセミナー……………⑦
「奥入瀬サミット2014」開催
活用しませんか?
快適な暮らしのための再生可能エネルギー
あなたの声を県政へ
 - ③ 工藤所長のソウルからアンニョンハセヨ……………⑧
あおもりインフォメーション

編集発行 / 青森県広報広聴課
平成26年6月1日発行(偶数月1日発行)

表紙：あおもり藍産業協同組合 吉田久幸さん(手前)と赤田久範さん(奥左)、農事組合法人・羽白開発 福士英雄さん(奥右)



世界が認める青森ブランド

くここから生まれる価値が世界に評価され、誇りに思える県になるく

2030年のめざす姿

平成26年度からスタートした「青森県基本計画 未来を変える挑戦」では、2030年のめざす姿を「青森県の『生業(なりわい)』と『生活』が生み出す価値が世界に貢献し広く認められている状態」としています。

グローバル化が進む現代で、経済的な豊かさや生活面での暮らしやすさの両方が相まって生み出す価値が、青森県を豊かにするだけではなく、他の地域や世界にも貢献して、それが世界から認められているような状態を、県民が一丸となって実現していこうというものです。

このめざす姿を3つのキーワードで思い描いてみましょう。

メイド イン Made in Aomori

青森県の商品・商品が世界で使用され、その価値が定着していること。

メイド バイ Made by Aomori

青森県で生まれた資源や技術、仕組みなどが世界で活用され役立っていること。

メイド ウィズ Made with Aomori

世界の中で青森県と一緒に進めるパートナーシップの取組が増えること。

まずひとつは「メイドイン青森」。

青森県の商品・商品が世界で愛用されていること。ふたつめは「メイドバイ青森」。青森県で生まれた資源や技術、仕組みなどが世界で活用され役立っていること。三つめは「メイドウィズ青森」。

青森の人財や組織がいろんな地域の人や組織と一緒に活動して新たな価値を生み出す取組が増えること。

このように、青森県の様々な営みから生まれる価値が世界から評価され、県民がその恩恵を十分に享受するとともに誇りに思えるような状態をめざしています。

メイドイン青森だけではなく「青森ブランド」

県のめざす姿を、簡潔に表現したのが、

「世界が認める『青森ブランド』の確立」

です。「青森ブランド」というと、県産品など、モノのブランド化をイメージしがちですが、それだけではありません。白神山地などの自然、縄文などの歴史・文化、「青森県ならではの」技術やサービス、さまざまな地域資源、青森県出身またはゆかりの人財、そしてそういったものをトータルで「青森県」といったときのイメ

ージなど、それらすべての価値が集まったもの、それが「青森ブランド」です。

この「青森ブランド」を、さらにアプローチを変えて、県民の方や県外の方から見てわかりやすく整理すると、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の青森県ということができます。

「買ってよし」はビジネス対象としての価値、モノを買うだけではなく、青森県をビジネスのパートナーとしよう、青森県に進出しようという価値。

「訪れてよし」は、観光や交流、滞在、移住対象としての価値。

「住んでよし」は、ここに住んで自分の生活が豊かになるといった生活対象としての価値。こうした3つの価値を備え、それが世界に認められている状態をめざすものです。

「青森ブランド」確立のためには、まず県民のみならず一人ひとりが、あらためて青森の価値に気づき、それを相手にどう伝え、届けるかを考えることがとても大事です。

県内では、このような視点に立った県民の活動がはじまっており、国内外から注目されています。

オール青森で作った 「あおもり藍」を世界に発信する



あおもり藍産業協同組合の皆さん

買って
よし

初 めて藍の花を見たのは、友人に誘われて弘前大学の

藍研究会に参加した時のこと。スライドに映し出されたピンクの花がすごくきれいだったので、「休耕田を活用して藍を植えば景観も良く、藍を活用したビジネスが興せるのでは」と、考えたんです。そこで、私が営む縫製業と、印刷業、電気設備業、刺しゅう業の異業種4社が、それぞれの得意分野を生かそうと集まって、「あおもり藍産業協同組合」を設立しました。

私たちは、個々に専門分野は持っているものの、藍染めに関する



藍栽培研修

知識はゼロ。さらに、藍を栽培する農家も初めての経験で、専門家が一人もない状態でのスタートでした。ですので、何百年もの伝統がある職人と同じことをやっても勝てるわけがありません。そこで、私たちは、藍染めの既成概念にとらわれず、柄物の布や木、革の藍染めなど、まだ誰もやっていないこと、少しでも可能性がありそうなものに挑戦し続けました。何もわからない素人だからこそ、型にはまらない自由な発想が生かされたのかも知れません。



藍染め作業



上:乾燥した藍葉
左:パウダー化した藍葉

力を結集しオンリーワンの高い技術を確立

試 行錯誤の末に生まれた独自の技術は、全工程をデータ管理することにより、職人の技量に左右されず品質を一定に保つことができました。それによって、地元の若者の雇用にもつながり、現在、若い女性たちが地元への誇りとやりがいをもって働いています。

また、「あおもり藍」は濃紺から空色まで8色に染め分けることができ、「藍染め」といえば濃紺」という既成概念を打ち破りました。ニューヨークの展示会でも「きれい！」と称賛の声が上がり、もともと藍染めの文化があつた青森で産業として復活させたこと、休耕田を活用して栽培していることなど、「あおもり藍」が誕生したストーリーも高い評価を得ました。東京のデパートで行われた企画展では、30を超える有名ブランドが、「あおもり藍」のデニム、シャツ、シューズなどのアイテムを発表し、会場は「アオモリ・ブルー」に染まりました。

私たちは、異業種の集まりだからこそ、それぞれの立場で意



藍製品

見を交わしながら、どこにもない新たな価値を生み出すことができましたと思っています。今後、さまざまな分野と連携しながら力を結集させ、「あおもり藍」を世界に発信していきたいですね。

青森の先人達は、こぎん刺しなど様々な形で藍を活用し、青森特有の文化に織り込んできました。あおもり藍は、伝統に新しい発想を取り込んで、世界が認める「買ってよし」の青森の価値を確立しつつあります。



【インタビュー】
あおもり藍産業協同組合 代表理事
よし た ひさ ゆき
吉田 久幸さん

ハマと街をつないで 八戸に新たな価値を創造する



「八戸バイヤースフェスタ」の企画スタッフと参加店の皆さん



八戸バイヤース

「ハマ」と街の人々をつなぎ、そこから新しい価値を生み出して、八戸を元気にしたい。そんな思いで、地元の水産業に携わる有志と異業種の仲間が集まり、2011年6月に結成したのが「八戸ハマリレーションプロジェクト」です。

活動の大きな柱は、八戸の魚介類を食べ、知って、愛してもらうことを目的とした「八戸バイヤースフェスタ」。3年目を迎えた今年、2月初旬〜3月末までの2ヶ月間、市内13ヶ所のレストランが、それぞれに工夫を凝らした「八戸バイヤース」を提供しました。「八戸バイヤース」のルールは2つ。八戸港に水揚げされる魚介類を4種類以上使用すること、魚介の旨みたっぷりのスープを活かした締めの一皿など、「八戸流は二度おいしい！」工夫をすることです。

そもそも、南フランスの代表的な料理・バイヤースを八戸で提供しようと思った理由は、バイヤースが漁師町で生まれた料理だったから。八戸にも、冬に水揚げされる上質で多様な魚介類があり、この魚介類の良さを最大限に引き出す腕の良い料理人たちがいます。ハマと街の良いところをつないだ結果、生まれたのが「八戸バイヤースフェスタ」なのです。

八戸まで来て味わう価値がある
そんな声が届くようになった

最近、「フェスタ」が口コミで広がりをみせ、「この時期の八戸が面白そう。お祭りみたいで楽しい。こんなにおいしい魚が食べられる八戸って魅力的。」といった声が県内外から寄せられるようになりました。

八戸バイヤースフェスタは、単に料理の美味しさだけではなく、食べた時の季節や魚介類の変化、お店や地元の人との出会いや対話が、相乗的な楽しみを生み出している「フェスタ」なのです。

回を重ねるごと

とに、市民・観光客ともに

八戸の魚介類への関心が

高まり、「ハマの街・八戸」

の魅力と価値も高まっていると実感しています。こうした活動が評価され、2013年にはグッドデザイン賞（公益財団法人日本デザイン振興会主催）を受賞しました。同時に、その価値を地元の子ども達に伝えるため、「子ども向け魚料理教室」や「八戸こどもレストラン」なども開催しています。



今後も、様々な角度からアイデアを練り、人をつないで仲間の輪を広げ、「来てよかった」「また来たい」と思っていただけける八戸、そして、子どもたちがふるさとを誇りに思えるハマと街をつくっていききたいですね。

八戸の魅力の一つは、新鮮な魚介類が豊富で、それを生かした料理がたくさんあること。これに、ハマと街のヒトのつながりが生み出す魅力が加わり、冬の八戸に新たな「訪れてよし」の価値が定着しつつあります。



【インタビュー】
八戸ハマリレーションプロジェクト 局長
古川 篤さん

「青森県基本計画 未来を変える挑戦」マーク&ロゴをデザインしてくれた尾崎伸行さんからメッセージをいただきました

この頃、あちこちの自治体でも注目の「婚活」。合コンで勝ち抜ける人って…と考えます。(既に結婚して子供もいる私ですが、男目線です。)自分の押し出しポイントをしきりに話す。田んぼが何ヘクタールあるとか、学歴がどうか、会社では部長だ取締役だとか。こんな人、信用できないですよ。それなら、人見知りをして、オレはオレだとばかりに無口を決め込んで、誰かが話し掛けてくれるまでタバコと会

話中の人。これも暗いシダメ。いい作戦じゃない。(ちなみに僕はこのタイプ。)

きっとモテるのは、いつもよりちょっとオシャレに身だしなみを整え、女性の話の聞き役に回れる人。(こんな人間になりたいんですけど。)これって、自分のことより相手のことを優先して考えてること。結局、『どう思われたいか』をしっかりと考えてる人が成功しちゃうんだと思うんです。

昔はこんなことを考えなくても良かったし「婚活」なんて言葉もなかったんですけどね。

ところで今、青森県は県外そして海外の人達に好いてもらいたいと思ってます。青森県は人間じゃないけれど、そろそろ『どう思われたいか』を戦略的に考えてみる時期に来ているのかもしれない。

尾崎伸行

尾崎 伸行氏 略歴

青森市出身、グラフィックデザイナー。「青森県基本計画 未来を変える挑戦」マーク&ロゴのほか、「青森の縄文を世界遺産に」マーク&ロゴ、青森県震災復興シンボルマークをデザイン。「ひろびり」TV番組タイトルロゴ、「青森さんのやさしいスープ」パッケージが近作。



青森県基本計画
未来を変える挑戦

～強み発とごん、課題をチャンスに～
Aomori Prefectural Government Master Plan
Changing the Future of Aomori
Breakthrough Innovation

語って、かだつて(参加して) みんなで街を盛り上げる



イカす大畑カタル団の皆さん

はじまりは、2011年。東京からUターンしてきた際、地域の人口も減り、商店街はシャッターが閉まり、街全体に元気がないと感じました。東京の広告業界で働いていた経験を生かし、若い世代にも地元の魅力を感じてもらえる仕掛けづくりができたなら…。

そんな思いから、「大畑を元気にしたい」と、その翌年、同級生有志らと「イカす大畑カタル団」を結成しました。

私たちが運営しているコミュニティカフェ「葉研温泉カフェekadar(カダール)」は、葉研温泉郷にあった空き店舗を改装したものです。そこはかつて、おでんを店内で食べられるような酒店で、地域の交流の場でした。メンバーから「ここでカフェやりたくない？」という声が上がリ、交流の拠点としての



コミュニティカフェ「葉研温泉カフェekadar」

カフェがスタート。葉研温泉から引いた足湯や作品の展示販売ができるスペースも設けています。最近では、地元の人達がコーヒーを飲み立ち寄りしたり、そこに観光客も参加して一緒に大畑の話で盛り上がりたりして、飲食スペースにとどまらない場所になっているかなと思っています。

人間本来の暮らしができる「生(き)の暮らし」がある場所

葉研温泉は、来年、開湯400周年。そのイベントとして、一昨年から、「ミナカダ祭」を開催しています。カフェのとなりの自然空間を利用し、地域の伝統芸能、アート、音楽が融合した内容です。特に昨年は、祭り要素を増やそうと「大畑八幡宮例大祭山車」を運行しているすべての町会に呼びかけました。みんな「大畑のためなら」と協力してくれて、ステージのまわりには、各町会の魂のシンボル「山車の見送り幕」が勢揃いしました。

子どもたちも参加しての伝統芸能、会場に響き渡る音楽や祭囃子、舞台のライトアップ。「こんな祭りどこにもないですよ」と来場者に言われた時、



これが大畑の懐の深さであり、魅力なんだとあらためて実感しました。住民がほぼ全員参加してくれた地区もあって、来場者は前年と比べ2倍に増え、カタル団の祭りだったものが、街全体の祭りへと変わりはじめたと感じました。

イベントの時、「葉研、最高！」と叫んでくれた市民の女性は、今やスタンプとして活躍。主婦の目線を生かした誘客の仕掛けを提案してくれます。さまざまな立場や業種の人に関わることで「化学反応を起こし、活動の幅がどんどん広がっています。青森には縄文もあつたように、人間本来の生活ができる場所だと思っています。そして大畑も、薪割りをしたり釣りをしたり、ここの「生(き)の暮らし」を楽しんでいる人がたくさんいます。そんな大畑の元気、そして誇りを取り戻したい、そう思っています。

同じ地域に暮らす人達に、地元の魅力をもつと感じて欲しいと思う気持ちから始まった「場づくり」の活動は、様々な人との関わりの中から地域の新しい関係性を育み、この地域の「住んでよし」の価値を高めています。



【インタビュー】
イカす大畑カタル団 代表
なが おか しげん じょう
長岡 俊成 さん

国境を越えて人・物・サービスの移動が活発化するグローバル化の波は、本県にも押し寄せています。この流れの中で、私たちの「生業」と「生活」の価値をしっかりと守り、さらに発展させていくためには、日々の生活に根ざした地域の視点と、グローバルの視点を併せ持つことが重要です。

今回ご紹介した皆さんは、それぞれが地域の強みや課題をしっかりと把握した上で、さまざまな人とながら「買つてよし」「訪れてよし」「住んでよし」に代表される「青森ブランド」の価値を高める取組を進めていました。いずれも、元々あった価値を見直し、これまでと違った視点での工夫を加えて、新たな価値を引き出しています。こうして生み出された価値が、青森ブランドを形づくるのです。

県では、世界が認める青森ブランドの確立に向けて、県民の皆さんと一丸となって青森県の新しい価値を築いていくため、秋頃に「青森ブランド」についてのフォーラムを開催します。

県民の皆さんと一緒に、あらためて本県が有する資源の価値を見直すとともに、それを国内外に向けてどのように伝え、評価を勝ち取っていくかを考える機会とする予定です。詳細が決まりましたら、県の広報媒体やホームページなどでお知らせします。

企画調整課 ☎017-734-9129

6月の「2030年のめざす姿 世界が認める青森ブランド」関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送時間
青森放送	大好き、青森県。	6月15日(日) 17:00~17:15 「県民だより あおもり」と連動して青森ブランドを紹介
青森テレビ	みんなの県庁!	6月7日(土) 18:55~19:00
	こんにちは、県庁です。県職員が生解説	6月2日(月)「おしゃべりハウス」(10:00~10:55)内で放送
青森朝日放送	メッセージ 3回シリーズでお届け	6月7日(土) 6月14日(土) 6月21日(土) } 9:30~9:35

「青森ブランド」を貫くもの

青森県知事 三村 申吾

今回の「県民だよりあおもり」は、全体が「青森ブランド」をテーマとして、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」と表現される青森ブランドの具体の姿のあれこれや、またそれを体現すべく、それぞれの分野で活躍する青森の人財を特集するとの話をいただいた。

そこで、自分のページでは、この「青森ブランド」の根っこを貫く青森の持つ素晴らしさについて述べてみたい。

「今は昔」の古い話になるが、かつて国文学を学んでいる頃に出会った上島鬼貫(うへしまおにつら)の言葉が、今も強烈に自分の胸にある。

鬼貫は「東の芭蕉、西の鬼貫」と称された俳人であり、俳諧文芸の在り方について「まことの外に俳諧なし」との突き抜けるような本質論を残した。

自分はこの一言を、文学理解のためだけでなく、自らが人生に臨むに当たっての思いとして来た。

だからこそ、リシャル・コラスさんとの地元新聞三紙での新春対談は、自分にとって、「相通じる本質」発見の感動であり、喜びでもあった。

コラスさんは、日本でも五冊の著作がある作家であると同時に、世界的ブランドであるシャネルの日本代表でもある方だ。

対談テーマは、「新基本計画 未来を変える挑戦」における青森

申吾の ほっとコラム

県のブランド化戦略のためには、何が大切であるかという事であった。

彼は、

「正直と本物はつながっている」

「青森はキャンペーンがたりないですわ。先程申し上げたように『青森は本物。青森は正直だ』という基本的な非常に強いスローガン。それがどん!とあってね…」

とズバリ、私たち青森の芯にある「正直で本物」がブランドの要だとアドバイスしてくれた。

また、紙面の都合で収録出来なかったけれども、「海の中に赤い色を入れたら、そのうち消えてしまうが、その赤い色、“芯”を守ることが大切」と丁寧に補ってくれた。

今、県として啓発・具体化を含め様々な方向からブランド戦略を提案している訳だが、改めて鬼貫の云うがごとく

「まこと(正直)の外に青森ブランドなし」と自分としても思うところである。

コラスさんの指摘のように、県民性のどんと真ん中にある“芯”、「正直で本物」の素晴らしさに私たちが気づき、それをしっかりと広げて行く事が、「青森ブランド」確立のための一番肝心な道筋なのではないかと考えている。

ちょっとした工夫で、健康ごはん!

ゆでて、
素材の旨味を
引き出す!

かぶとたけのこの混ぜすし

全国3位の収穫量
青森県産のかぶ

かぶは、白い根の部分よりも葉の部分に栄養があります。葉には、皮膚や粘膜を健康に保つビタミンA等のビタミン類や、骨や歯をつくるカルシウム等のミネラルも多く含まれています。かぶをまるごと食べて、栄養を余すことなく摂りましょう。

ゆでる

ゆで方の違いで、うま味やカラダに取り込む栄養まで変わってきます。また、材料を下ゆですることでアクが抜け、味がしみこみやすくなるので調味料を減らすことができます。

ゆで湯の量	ゆで湯の温度	ふたの有無
たっぷり 青菜類・パスタ	熱湯 青菜類・肉・魚	有 根菜類・固い食品
少な目 根菜・淡色野菜・えび	水から 根菜類・たけのこ・芋	無 青菜類・麺類・里芋

◎材料 ※材料は4人分です

- 米……………2カップ
- 酢……………40cc
- 砂糖……………大さじ2
- 塩……………小さじ1
- 根曲り竹……………100g
- にんじん……………70g
- ふき……………50g
- 白かぶ……………100g
- だし……………100cc
- 塩……………小さじ1/4
- 砂糖……………小さじ2
- だし……………1カップ
- しょうゆ……………小さじ1
- 塩……………小さじ1/2
- みりん……………小さじ1

◎飾り用

- 卵……………2個
- 塩……………小さじ1/3
- 砂糖……………大さじ1
- 油……………適宜
- せん切りのり……………適宜

◎調理法

- ①米を炊いてAと合わせ、すし飯をつくる。
- ②たけのこをゆで、ななめのうす切りにする。にんじんは短冊切りに。
- ③ふきを塩で板ずりし、塩ゆでする。水に放して皮を取り除き、アクを取り、ななめのうす切りにする。
- ④かぶを茎を2cmつけた状態で切り落とす。くし型に切って皮を取り、塩を加えた熱湯で軽くゆでる。ゆで湯を捨て、熱いうちにBに浸ける。
- ⑤たけのこ・にんじん・Cを鍋に入れ、火にかけて10分ほど中火で煮る。ふきを加え、ひと煮立ちしてから火を止める。
- ⑥卵に塩・砂糖を加えて混ぜる。卵焼き器に油をなじませ、うす焼き卵を作り、短冊切りにする。
- ⑦汁気を軽く切った④と⑤をすし飯に混ぜて器に盛る。上にうす焼き卵とりのりを散らしてできあがり。

◎一人分のエネルギー 378kcal / 塩分 2.6g



「健やか力」アップ! 一口メモ

青森県男性のBMIの平均値は24.3で全国2位、女性は23.2で全国6位です。BMIは18.5未満がやせ、18.5以上25未満が標準、25以上が肥満と判定されます。肥満予防のため、食べ過ぎによるカロリーの過剰摂取に気をつけましょう。

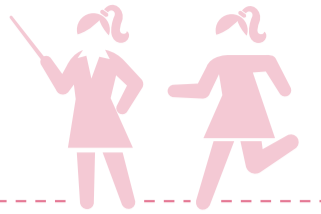
料理のカロリーは右記の順番で高くなります
ちょっとした工夫でカロリーダウン!



※BMIの計算方法: BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m) (※BMIの平均値は厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」より)
※「健やか力」とは、健康情報や医療情報を適切に利用し、活用する力のことをいいます。

レシピ開発・調理/管理栄養士 福土のみ子

輝く女性のためのプレミアムセミナー 「奥入瀬サミット2014」開催



ステップアップしたい。ネットワークを広げたい。リフレッシュしたい。
そういう女性の皆さんに贈る「奥入瀬サミット」。

昨年は北海道から沖縄まで、日本全国から46名の女性経営者や女性リーダーが参加し、交流を深めました。参加した方々からは、「超一流の講師陣で、有意義な時間を過ごせた。」「参加者もトップリーダーばかりで刺激になった。」といった声が寄せられています。

3回目となる今年もまた、超一流講師陣による講演、交流会、十和田湖・奥入瀬渓流の自然を活かしたアクティビティなど、充実のプログラムを御用意し、意欲あふれる女性の皆様の参加をお待ちしています。

奥入瀬サミット2014

- ◎日程／2014年9月5日(金)～7日(日)
- ◎場所／星野リゾート 奥入瀬渓流ホテル[十和田市]
- ◎対象／青森県内及び国内外の女性経営者や企業の女性社員をはじめとする意欲あふれる女性
- ◎主な講師／田中優子さん[法政大学総長]、小室淑恵さん[株式会社ワークライフバランス社長]、谷川真理さん[マラソンランナー]
- ◎参加費用／お一人様 80,000円程度[宿泊・食事代、受講料。アクティビティは別料金となります。]
- ◎申込／案内状が必要となります。御希望の方は事務局[電話 017-734-9133]まで。



講師との親密な意見交換



谷川真理さんと走る奥入瀬渓流ジョギング

地域活力振興課 ☎017-734-9133

活用しませんか？ 快適な暮らしのための再生可能エネルギー



地中熱・温泉熱利用

地中の温度は年間を通してほぼ一定で、冬は外気温より高く、夏は外気温より低くなっています。

地中熱利用は、この温度差に着目し、住宅・施設の冷暖房や歩道・駐車場の融雪等へ効率よく熱を供給する技術です。

また、地中熱よりも高温の温泉熱は、給湯・暖房設備にも導入されています。

このような熱利用は、化石燃料を使用しないため、CO₂排出量の削減のほか、省エネ、ランニングコストの低減につながると期待されています。

県では、地域の熱エネルギーを活用することで、雪国の暮らしをより高効率で快適にする取組を推進しています。



駐車場融雪事例(青森市)

歩道融雪事例(青森市)

詳しくは [青森県 地中熱](#)

エネルギー開発振興課 ☎017-734-9378

グリーン電力証書制度のお知らせ

住宅用太陽光発電から生まれるグリーンな環境価値を証書化して、県内のグリーン電力証書事業者を通じて企業等に販売することで、家庭に相応額がキャッシュバックされる制度です。

証書を購入する企業にとっても、環境貢献やイメージアップが図られるメリットがあります。

詳しくは [青森県 グリーン電力証書](#)



アナタの声を県政へ～広聴事業のご紹介～



県政に関するご提案やご意見をいただき、魅力ある青森県づくりに活かすため、様々な広聴事業を行っています。その一部をご紹介します。

県政・わたしの提案

未来を変える第一歩。それは「アナタの声」から始まります。青森県をもっとよくなるため、県民の皆様からの前向きな提案をお寄せください。

いただいたご提案は、県政を進める上での参考とさせていただきます。過去のご提案と回答は「県民の声データベース」として、県庁ホームページで公開しています。

郵送・ FAXで提案する場合

〒030-8570
青森県広報広聴課「県政・わたしの提案」係
FAX 017-734-8031

県庁ホームページの入力フォーム・ 電子メールから提案する場合

[県政・わたしの提案](#)

出前トーク

県の職員が皆さんの集会や学習会などにおじゃまします。県が特に力を入れて取り組んでいることや、皆さんの生活に関わりのある様々なテーマについてお話し、ご意見をお伺いします。

対象は、営利を目的としない概ね20名以上の方が参加する集会などで、平日以外にも土曜・日曜・祝日の開催にも応じます。

※職員が何うための経費は無料ですが、会場準備については申込者にご負担ください。

〈平成25年度に利用の多かったテーマ〉

- ◎「生活習慣病」について知ろう
- ◎「ドラッグ」ってなに？
- ◎「食育」をしましょう
- ◎青森県の歴史について

未来デザイン県民会議

知事が県内各地を訪問し、地域で元気に活動している団体や小・中・高校生等の皆さんと、「将来の夢」や「青森県の良いところ」などをテーマに語り合います。

広報広聴課 ☎017-734-9138



出前トークのようす



未来デザイン県民会議(中学校での意見交換)のようす



北東北3県・北海道ソウル事務所

工藤所長の

ソウルからアンニョンハセヨ～

オーレーオレオレオレー、さあ6月、FIFAワールドカップサッカーブラジル大会の開幕も間もなくです！ワールドカップサッカーには、もちろん、日本代表も、韓国代表も、出場します。ぜひ、両チームには予選リーグを勝ち抜いてもらい、決勝トーナメントでの日韓戦を期待します。

さて、ソウルには、2002年のワールドカップサッカー日韓大会のときに作られた、サッカー専用のソウルワールドカップ競技場があります。昨年の10月には、韓国代表とブラジル代表の試合が行われ、65,308名の観客が訪れました。この競技場をホームとするのが、

プロサッカーKリーグクラシックの「FCソウル」です。水原(スウォン)市をホームとする水原三星ブルーウィングスとのダービーマッチは、ユニフォームが赤と黒のソウル、青の水原でスタンドも埋まり、とても盛り上がります。

もう一つ屋外スポーツといえば、プロ野球。ソウルを本拠地とするチームは、LGツインズ、斗山(トゥサン)ベアーズ、ネクセン・ヒーローズの3チームあります。暑い夏に屋外でビールを飲み、チキンを食べながらの野球観戦は格別です。もっとも、韓国ではゆっくりと野球観戦をさせてはもらえません。内野席が応援席となっていて(日本では外野席が応援席ですね)、攻撃時には観客全員が総立ち、イケメン応援団長の号令のもと、選手一人ひとりのテーマソングが大音量でかかると、観客は大声で熱唱し、ステージ上ではチアリーダーが踊りまくり、とてもエキサイティングです。

日頃のストレス解消には、もってこいです。

ソウルでは、このように、青森県内ではなかなか見ることができないプロスポーツを、安く、簡単に見ることができます。さらに、今年は9月にアジア地域のオリンピックであるアジア競技大会が仁川(インチョン)市で開幕します。今年の夏はソウルでスポーツ観戦はいかがでしょうか。それでは、次回までアンニョンハセヨ(お元気で)！



ソウル VS 水原ダービーマッチ



斗山ベアーズの熱狂的なファン



青森・ソウル線でソウルへ、世界へ！

水・金・日 週3便運航中

KE768 青森 13:25 ⇒ 仁川 16:00
KE767 仁川 10:10 ⇒ 青森 12:30

☎ 交通政策課 ☎017-734-9153

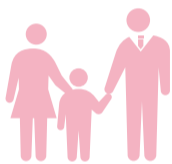
INFORMATION

あおもりインフォメーション

臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金

平成26年4月からの消費税率引き上げに伴う負担増の影響を考慮して、一定の所得以下などの要件を満たす方に対する暫時的・臨時的な措置として、「臨時福祉給付金」が支給されます。

また、子育て世帯への影響を緩和するための臨時的な措置として、「子育て世帯臨時特例給付金」が支給されます。



名称	臨時福祉給付金	子育て世帯臨時特例給付金
支給額	1人につき1万円 (加算対象者は5千円上乗せ)	対象児童1人につき1万円 ただし、臨時福祉給付金の対象者等を除く

支給要件や申請時期・手続きなど、詳しくは、お住まいの市町村担当窓口にお問い合わせください。

健康福祉政策課 ☎017-734-9277 こどもみらい課 ☎017-734-9301

自動車税 納税はお早めに！

自動車税は、金融機関のほか、全国のコンビニで納税できます。また、パソコン・携帯電話の専用サイトからクレジットカードでも納税できます。(別途、手数料324円がかかります。)詳しくは、納税通知書の同封チラシをご覧ください。



クレジット納税 Yahoo! 公金支払いサイト [Yahoo! 公金支払い](#)

東青地域県民局県税部課税第三課 ☎017-734-9974

「土砂災害から身を守るために」～6月は土砂災害防止月間です～

土砂災害から身を守るためには、日頃の備えと早めの避難が必要です。土砂災害は、これからの大雨の時期に特に多く発生します。身の危険や周囲に異変を感じたら、ただちに避難するとともに、市町村などへ連絡しましょう。

土砂災害警戒情報や土砂災害警戒区域等マップなど、土砂災害に関する情報は、県庁HP [防災情報\(砂防\)](#)



河川砂防課 ☎017-734-9661

イルカいないかキャンペーン実施中！6月30日まで

4月下旬から7月上旬にかけて、陸奥湾にイルカの群れがやってきます。この時期、運が良ければ、津軽半島の蟹田港と下北半島の脇野沢港をわずか1時間で結ぶ「むつ湾フェリー『かもしか』」の船上からイルカを見ることができます。イルカを見ることができた乗船者全員に記念品をプレゼント！この機会に、陸路では味わうことのできない、むつ湾フェリーの「イルカ？いないか？」運だめしの旅を、ぜひお楽しみください。



詳しくは、県庁HP [イルカいないかキャンペーン](#)

交通政策課 ☎017-734-9151

みなさんと県庁を結ぶ
県政
インフォ
メーション

テレビ

- RAB「LINK/青森県」(30秒スポット)
- RAB「大好き、青森県」(第三日曜日)17:00~17:15 (放送週が変更になることがあります)
- ATV「こんにちは、県庁です。」(月)10:00~10:55 「おれんげい」
- ATV「みんなの県庁！」(第一土曜日)18:55~19:00
- ABA「メッセージ」(土)9:30~9:35

ラジオ

- RAB「青森県広報タイム」(月)~(木)7:30~7:35
- エフエム青森「あおもり・ふあん」(月)~(金)16:55~17:00
- エフエム青森「申吾のほっとチャンネル」第一日曜日7:00~7:30

新聞

- 「広報あおもりけん」毎月1日・16日 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報

メールマガジン

- 「メルマガあおもり」毎週金曜日配信 [メルマガあおもり](#)

編集発行/青森県広報広聴課

〒030-8570 青森市長島1-1-1 ☎017-734-9137 県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/>

※「県民だよりあおもり」は点字版・録音版も発行しています。ご希望の方は広報広聴課までお知らせください。

この印刷物は527,000部作成し、印刷経費は1部当たり8.8円です。

県民だよりあおもりの印刷に係る電力2,964kwhは、県内の住宅用太陽光発電で発電されたグリーンな環境価値を活用し、グリーン化されています。詳しくは県HP [グリーン電力証書](#)